

## 日漢協定期総会後懇親会

2018年5月15日(火)、KKRホテル東京で開催された日漢協第36回定期総会後に、懇親会が行われた。政界、厚労省、農水省、日本医師会、日本東洋医学会、日本薬剤師会、日薬連の他報道関係者等多くの方々が参加した。

初めに、協会を代表して挨拶した加藤照和会長は、2018年度は、“国民の医療と健康を担う漢方の将来ビジョン研究会”の提言を受け、7月には将来を見据えた新たなビジョンを発表、2月には「漢方の将来ビジョン研究会2018」を開催することを伝えた。

次に、平成30年度薬価制度改革について、日漢協が要望していた生薬の薬価が不採算品再算定として引き上げられたことへの感謝を述べた。一方、生薬を原料とする漢方製剤・生薬製剤が基礎的医薬品に適用されなかったことについて、今後の安定的供給のために基礎的医薬品への位置づけは絶対に必要であり、引き続き粘り強い要望を続けていく旨を述べた。

会員全社に共通する課題としては、原料生薬の品質確保と適正価格による必要量の確保をあげた。農林水産省の重要な政策である薬用作物の産地化に関する支援事業や、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の「薬用植物国産化・利活用促進プロジェクト」事業を活用しながら、着実な成果を上げ生薬の安定供給を図っていくと述べた。

最後に、国民の皆様の健康と医療に貢献できるよう尽力することを約束し、挨拶を締めた。



【日漢協 加藤照和 会長】

[【挨拶全文】](#)

来賓挨拶では、厚労省の森和彦大臣官房審議官が、4月から厚労省が本格稼働しているミッドネット(医薬品の安全性を主題にしたインフラ)をはじめ、リアルワールドデータを使ったエビデンスづくりに積極的に取り組んでいこうと動き出していることを披露した。今後、より良いデータの収集や活用をしてもらうために医療現場のかかりつけ医師や薬剤師にどのように活躍してもらえるかについて、「日漢協の皆様にもぜひ一緒に検討し取り組んでいただきたい。私どももそれを踏まえ制度の見直しを含め取り組んでいきたい」と呼びかけた。



【厚労省 森和彦 大臣官房審議官】



【日本医師会 横倉義武 会長】

続いて、日本医師会の横倉義武会長が、“国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会”を取り上げ、「日本医師会としても、漢方医学研究を後押しするよう、研究支援の予算確保をお願いしている」と話した。今月、医師会が出した認知症に関する手引きでは、認知症の周辺症状であるBPSDに対する漢方薬(抑肝散)が有用であると記載しており、漢方製剤が日常診療で適用されることは周知の事実であることを述べた。「今後も漢方薬が適正な価格で医療保険制度の中で処方されるよう努力していきたい」と締めくくった。

日本東洋医学会の佐藤弘会長は、薬価改定で漢方薬の患者負担の上昇を避けることができたことについて、支援への感謝の気持ちを伝えた。また、東洋医学会では“国民の医療と健康を担う漢方の将来ビジョン研究会”の提言に基づき、提言書検討委員会を立ち上げ、これから日漢協と一緒に活動を開始していくこと、来年の70回学術総会ではがん支持療法をテーマにしたシンポジウムの開催を考えていることを述べた。最後に、今年の大事な事項について、WHOのICD11の公表やISO問題を取り扱うJLOMの活動を取り上げるなど、学会が関与している活動概要について話した。



【日本東洋医学会 佐藤弘 会長】



【日本薬剤師会 山本信夫 会長】

日本薬剤師会の山本信夫会長は、今年の薬価改定において生薬の薬価が十分な評価を受けたことについて、大変喜ばしい旨をお話した。また、「国内にとどまらず、海外からのエビデンスも多く出ており、日本が作った漢方が世界で大きな力を発揮している。質の良いものを国民に提供するという原則を踏まえながら、漢方薬が患者さんの懐にも国の医療財政にも優しい薬として使用されるようお願いしつつ、私どももそれらが適切に使われるよう力を注いでいきたい」と述べた



次に壇上に登った  
日漢協の建林佳壯理事は、  
総会が成功裏に終了したことへの  
感謝を伝え、  
高らかに乾杯の発声を行った。



【日漢協 建林佳壯 理事】

歓談に入ったところで、  
参議院議員の尾辻秀久先生から挨拶があった。  
鹿児島島の種子島から直接会場に駆けつけ、  
種子島には日本に3カ所しかない薬草の研究所があるとのお話をした。  
また、「漢方薬の効き方は穏やかですが、  
これからの戦いにあたっては劇薬的働きをしてください。  
一緒に頑張りましょう」と力強い激励の言葉で会場を盛り上げた。



【参議院議員 尾辻秀久 先生】

参議院議員の武見敬三先生は、  
 現在社会保障をめぐる新たな方針の策定が  
 最大の課題になってきていることとお話した。  
 「エビデンスに基づいて費用対効果を分析しながら、  
 漢方がいかに国民の健康を守る上で  
 重要な役割を果たしているかについて、  
 学問的な基盤をきちんと構築しながら  
 政策的な理論武装をすることが、  
 これから確実に求められてくる」と  
 基盤づくりの重要性を呼びかけた。



【参議院議員 武見敬三 先生】



【参議院議員 藤井基之 議員】

参議院議員の藤井基之先生は、  
 漢方薬の原料の高騰化や抱え込みについて取り上げ、  
 「今後漢方製剤の育成について  
 外国からコントロールされる影響を小さくする必要がある」とお話した。  
 そして「漢方薬の原料はすべて中国に依存しなければいけない状態、  
 また、国内の特定のところでしかできないというような状態を、  
 いつか“東京の研究室でできるよ”という時代になるよう、  
 ぜひ一緒に作っていきたい」と述べた。

衆議院議員の三ッ林ひろみ先生は、  
 「漢方は日本の医療の中で中心的な存在になりつつある。  
 西洋医学と漢方医学を併せて患者さんの治療に役立てるといのは、  
 世界を見ても例のない日本独特の医療。  
 日本で健康寿命が延伸しているのも、  
 漢方薬の力が大変大きい。  
 漢方が保険の中でしっかりと役割を果たしていくことが、  
 日本の医療にとってとても重要なことだ」と述べた。



【衆議院議員 三ッ林ひろみ 先生】



【日漢協 鈴木一平 副会長】

懇親会は和やかなうちに進み、鈴木一平副会長が中締め壇上に立った。  
 「6月には新しい事務所に移転し、  
 会長を先頭に心新たに一致協力して  
 課題解決していきたい」と、  
 会員会社の協力と支援を  
 お願いして締めくくった。

